

質問 1-12 大戸川において昭和 28 年 9 月洪水で約 600m³/s 流下した実績があるので、550m³/s 改修までは可能ではないでしょうか。

(回答)

- 大戸川において昭和 28 年 9 月洪水より大きな洪水が発生した場合、昭和 28 年 9 月洪水と同様に安全に流せる水位を超えることが想定され、決壊の危険性が高まりますが、決壊までの間、改修した分以上に多くの洪水が河道の中を流下して、天ヶ瀬ダム、下流の宇治川・淀川に対して負担となります。

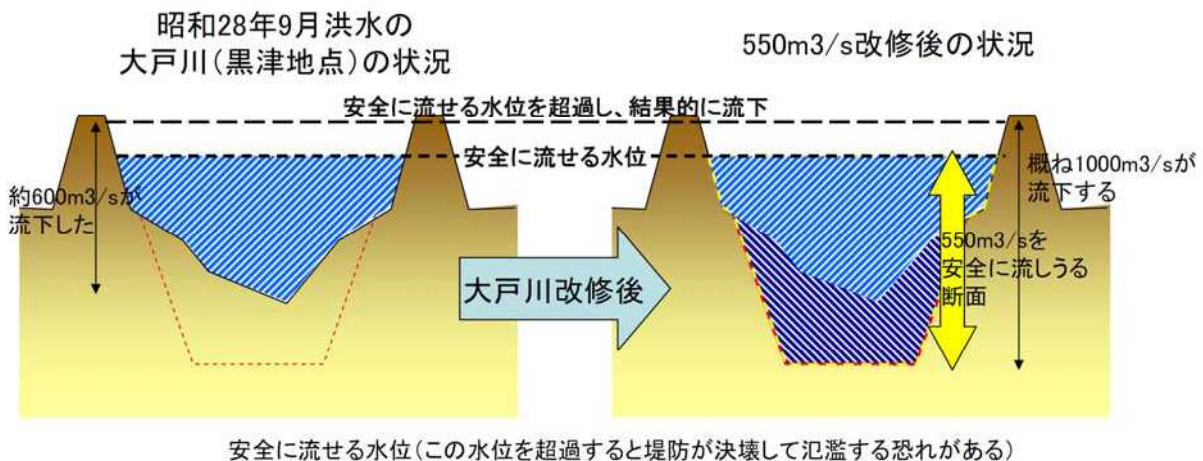


図 大戸川ダムに先行して大戸川改修を行った場合の流下状況

- そのため、大戸川ダムに先行して、大戸川の河川整備(550m³/s)を行うことはできません。

(関連資料)

- 平成 21 年 1 月 7 日 淀川水系河川整備計画(案)に関する技術的解説「昭和 28 年 9 月洪水で約 600m³/s 流下した実績があるので、550m³/s 改修までは可能では？」

http://www.kkr.mlit.go.jp/river/yodo_sui/p5.html

- ※上記の資料は、淀川水系河川整備基本方針・河川整備計画策定に向けての取り組みのホームページに掲載しています。

http://www.kkr.mlit.go.jp/river/yodo_sui/

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。